

都市と美術研究会
2018年11月13日(火)

スピネッロ・アレティーノとトスカーナの諸都市
Spinello Aretino's Art in the Tuscan Cities

早稲田大学文化構想学部 宮城徳也

発表要旨

2007年度と2017年度に特別研究期間でフィレンツェにそれぞれ1年間滞在する機会が得られ、それ以前に関心が薄く知識も乏しかった、ジョット以後の後期ゴシック芸術に魅力を感じるようになった。以前から関心があった古代、中世、ルネサンスの関係を考え合わせても、将来的には自分にとっての中心的課題である古代研究にも資するものと期待される。ジョットの影響を受けたジョッテスキと称される一群の芸術家たちの中で、今回特にスピネッロ・アレティーノに注目したのは、出身地のアレツォだけではなく、フィレンツェ、ピサ、シエナといったトスカーナ諸都市に残るスピネッロのフレスコ画の主題が、キリスト教の聖人の物語だけでなく、それぞれの都市に関する政治的背景を想起させる内容も見られるので、これらの作品を諸都市が画家に作成を依頼した意図を考察することにより、15世紀末から16世紀初頭における都市の在り方とルネサンスの生成を考える上での端緒になると考えたからである。単なる思い付きの羅列に終わる可能性が高いが、少なくとも、この10年間に観ることができた諸作品と芸術家本人に関しては、整理して紹介したい。